

九、調停者の奔走

一月二十三日、罷業團幹部の陳情に動かされた小石川區會議員大井玄洞、徳間竹次郎、橋本良之助等の發起により爭議協調委員會なるものを組織し、労資双方に介在せんと企てし、本會社側之れを欲せぬ、其次に亘る折衝は悉く徒勞に終りしを以て、全會は一月二十八日、本社作業の六割を占むると称せらる。雜誌講談社の社長野間清造をして會社に解決方を懇懇せしめたりに、依然調停を好まざりしため、同人は頗る不滿の體にて、今後印刷物は一切頼まぬしと憤然立去り、再び談會の計畫は失敗に帰したるのみならず、不徳間、橋本等は屢々爭議團本部に出入し、其行動恰も労働運動者の觀おきにしとあらざる状態にありしを以て、大井委員長等は之れに嫌らざりしもの、如く辞任を声明するに至り、<sup>談會は自然消滅の形となり</sup>爾來徳間、橋本等は引續き個人的に應援を、亦し曩より清印刷會社爭議の調停に經驗ある區有志大

橋本之助等と共に爭議團と同一行動を執るに至つた。かくて紛擾の永續は好箇の調停者の出現を待つもの、如くなりしが、二月十四日に到り、夕イヤモンド社長石山賢吉、美術印刷株式會社事務皆川省三等調停に起ち、極力奔走し、その功室からず、二月十九日漸く解決の運びに至りたり、後述に述ぶるが如く、俄然逆轉し、蓋し調停困難となり、西尾は畢く調停を絶するに至りし、も評議會の蹶起と共に、再びその懇請に應じ、至り、紫紙株式會社の長藤原銀次郎等と共に、労資の接近を求むること、再三、再四述べ、三月十八日解決を見るに至つた。先之、三月十日、小石川區會は警視總監に對し、調停依頼の陳情書を提出した。次に其の全文を記載する。

陳情書

本区共同印刷爭議發生以來、已ニ三月ニ垂ントシテ未ダ解決ノ曙光ヲ見ル。至ラヌ爲、關係者、困危極甚、多大ナルハ勿論、附近住民並印刷業者其他各